

everyone is different and that's ok

(みんな違って みんないい)

校長 山浦 麻紀



ダリア

(花言葉：気品)

先日、岸中学校国際交流事業においてカナダに行ってまいりました。35年前に始まった岸中ならではの伝統行事である短期留学も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で4年間ストップしておりました。昨年度から再開し、お陰様で今年度も無事に実施することができました。

私が感じたカナダの文化。一言で言い表しますと

「Everyone is different and that's ok」(みんな違って みんないい)

カナダは、多民族国家です。明らかに異なるそれぞれの「よさ」を、大人も子どもも、なんとも自然に認め合うことができている、ととてもあたたかな国、優しい国、それがカナダだと思いました。

帰国直後の朝礼で、色々な色と大きさの異なる「ダリア」を全校生徒に見てもらいました。一つひとつ、みんな異なっているけれども、それぞれがみんな美しい。みんな違うけれども、みんな同じ「ダリア」であり、花言葉はなんと、みんな岸中学校の校訓である「気品」なのです。

さて、大きな学校行事が続いた2学期もまとめの時期です。学校行事を実施する度に生徒の皆さんの一生懸命な表情、充実感にあふれた満足そうな表情を見ることができました。そして、大きな成果をあげることができたと実感しています。学級の団結は勿論、学校全体が前へ進化する躍動感を感じることができました。また、保護者の方々や地域の方々からも、「岸中の子どもたちの挨拶は、本当に日本一!」「岸中の生徒は、地域の宝物であり誇りです!」と良い評価を頂くこともできました。教職員は誰しも生徒の皆さんの頑張る姿、満足した表情などを見ることができると「やってよかった」との思いを強くするものです。生徒の皆さんが地域の方々などから褒めていただき、私たち教職員も幸せです。感動は真剣に、必死に取り組む姿から得られるものです。実に、各行事、生徒の皆さんは、「もっと 岸中 前へ!」一生懸命、良く頑張ってくれました。

11月を中心に、岸中の全ての教員が研究授業を実施しています。“ICTを活用し、心と心を触れ合わせ、子どもたち一人ひとりが自分のよさを生かし自信をもって生き抜く力を育むことのできる授業”をキャッチフレーズに研究を進めています。どの授業も、笑顔のあふれる教室環境の中で、積極的な意見交換をする様子が見られます。さらに今後の学級活動や授業でも活かしていくことができますよう努めてまいります。